# 平成28年度 学校評価(最終評価結果)

評価基準 4:十分できている 3:おおむねできている 2:やや不十分である 1:不十分である

※評価点:職員自己評価(最終)の平均

# 『信頼される学校・安心できる学校作り』

信頼される学校・安心できる学校作りのため全職員の共通認識のもと学校運営を推進する。

	評 価 項 目	具体的取組・評価視点	評価点
1	教職員が児童生徒へ適切な指導ができるよう,学びあい助言 しあう学校運営をする。	・学部間の共通理解と協力 ・各種委員会等の活性化推進	3.20
	児童生徒が安全かつ快適に過ごせるよう環境の整備に努める。	・備品等教育環境整備の充実	3.00

反 1児童生徒への指導については、学部間だけでなく必要に応じては学校全体で検討して対応したが、今後も 適切な指導になるよう努力していきたい。また、各種委員会はおおむね委員長のもと適切に機能できた。 省 2教育環境については、安全面はもとより快適な状況で学習に取り組めるように工夫するとともに、備品や消 「株品についても順調に配備できた。

#### 『主体性を育む指導』

一人一人の発達段階に応じ、キャリア教育の視点に立った主体性を育む指導の充実を図る。

	評価項目	具体的取組・評価視点	評価点
1	教育課程の反省を行うことで課題及び検討事項を明確にし、児 童生徒の実態に応じた教育課程の改善に取り組む。	<ul><li>・教育課程編成作業のプロセス確認, 周知, 計画提示</li><li>・学期毎の反省, 検討事項の確認(各学部及び係内)</li></ul>	3.09
2	子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた授業実践を行い、授業の改善·充実を図る。	・各学部1授業実践の提供 ・授業実践研究の成果を活かした授業作り, 授業実 践	3.25
3	一人一人に応じた自立活動の指導の充実と自立活動の個別 の指導計画の目標設定の在り方を周知する。	・目標設定の項立てについての職員への周知 ・ミーティングによる職員間での指導方針の確認	3.16

### 〈教育課程の改善〉

教育課程の改善に向けて、日々の授業実践の記録、反省を各学部で行ってきた。研修で行った授業研究、話し合いの在り方を生かして積み上げられてきている。また、年間を通した教育課程の編成に向けた計画も提示を行った。 〈授業の改善・充実〉

研修テーマにある『主体的な姿を育む授業作り」のもと教育センターの「授業サポート研修」のサポートを受けて各学部1 授業実践を行った。授業づくりのための教師の話し合い、次時の授業への建設的な意見の共有など学部、学校としての 授業作りへの意識を高める取り組みになった。

自〈個別の指導計画と授業実践の充実〉

全体研修のテーマである主体的な姿を育む授業作りを目指して、個別の指導計画に示してある児童生徒一人一人の重点目標と支援及び配慮の内容を活かした授業の改善・充実に取り組んできた。

〈自立活動指導の充実〉

生活支援センターなんさつの療育等支援事業を活用したST, OT, PT, DHによる連携指導を年間5回実施し、専門的な観点からの指導と研修に取り組んだ。また、自立活動便りを年9回発行し、連携指導の様子や県内の自立活動の情報を職員や保護者へ配付、ホームページ掲載し理解・啓発に努めた。

# 『健康作りと安全な環境設定』

健康作りと安心・安全な環境作りに努め、食育の推進など健康の保持増進に努める。

	評価項目	具体的取組・評価視点	評価点
	家庭や関係機関と連携を図りながら健康の保持増進に取り組 む。	<ul><li>・感染症対策基本方針周知</li><li>・保護者参加型DHによる歯磨き指導</li><li>・保護者への健康診断結果お知らせ</li></ul>	3.39
2	各係、関係機関と連携して安全対策についての意識向上に努 める。	・安全点検の実施 ・危機管理マニュアル周知・ヒヤリハット集計 ・校内の自転車利用区域確認・危機管理マニュアルの見直し及び更新	2.95

1 新たな取組として、学校医、学校歯科医による個別相談や校内の感染症発生状況のお知らせを家庭へ配付し情報の共有、連携を図ることができた。

及 2 校内でヒヤリハットした事例を全職員で情報共有し事故の未然防止に努めることができた。意識向上の ために, ヒヤ省 リハットした事例の報告で終わりにせず具体的な対策や経過報告をしていく。

☆次年度の取組

災害発生時の児童生徒引き渡し対応のための役割分担表の作成、組織的な体制整備及び家庭への周知

#### 『心に届く生徒指導』

基本的な生活習慣の確立を図り、心身の発達上の課題に向き合い、全職員の共通理解のもとに心に届く生徒指導を実践する。

	評 価 項 目	具体的取組·評価視点	評価点
1	「生活のきまり(小・中)」「生徒心得(高)」に基づく生活指導の 徹底を図る。	・生活のきまり,生徒心得についての機会を捉えた 指導 ・記載事項の職員への周知,指導態勢の確認	3.13
2	心の通い合った学校作りのために, 児童生徒会を中心に挨拶 運動に取り組む態度を育てる。	<ul><li>・挨拶運動の実践と各学級での全児童生徒への啓発</li><li>・挨拶大賞の定期的表彰</li></ul>	3.40

1 「生活のきまり(小・中)」「生徒心得(高)」について職員で共通理解を図り、それぞれの学部を中心に生活指導に取り組んできた。いろいろな機会を捉えて指導に当たっていただき、生活指導の徹底を図ることができた。携帯電話の使い方については、社会的な問題になっていることや、本校でもいくつかトラブルがあったことから、いっそうの徹底を図っていく必省要がある。

等 2 児童生徒会を中心に挨拶運動に取り組むことができた。また,学期1回挨拶大賞の表彰を行うことで,挨拶への意欲を高めることができた。学部によって,発達段階や実態の違いもあり,挨拶がしっかりできいないことがあったので,いっそうの啓発に取り組んで行きたい。

## 『社会生活力の育成』

各学部特性に応じた進路指導や生活・社会体験的な学習をより推進する。

_			
	評価項目	具体的取組·評価視点	評価点
	キャリア発達段階や各学部の生活年齢段階に対応した社会体 験的な学習を各指導の形態の中で発展的段階的に取り組む。	・キャリア教育の視点を踏まえた学部行事(学習)の整理 ・授業実践における視点の確認(進路研修をとおして)	3.13
:	福祉機関(施設・相談支援), 就労機関, 行政機関等と連携しながら学習活動や相談, 行事運営, 進路情報の提供を行う。	・学校、家庭、地域での学習を充実させるための進路 教育相談の実施・卒業後を意識した外部機関との連携や研修の実施	3.34

〈1 キャリア教育〉地域の産業や素材と関わりつながりを持った学習(職場実習や校外学習,校内での外部講師等)を推進することができた。各学部または全校でのキャリア教育(児童生徒のキャリア発達を促す生活年齢に即した教育活動)の視点の共有化が今後改めて必要である。

〈2 進路指導〉これまでの連携実績を踏まえながら、様々な関係機関とお互いの支援力を活用した協力関係ができている。また、企業ための特別支援学校見学会をはじめ様々な本校発の積極的な取組を行うこともできた。今後も本校教職員の進路指導力向上を常に意識した運営を推進することで、児童生徒の進路指導の充実、保護者への主体的な進路選択のための支援(情報提供や相談)、関係支援機関との密な連携を継続するとともに、本校教育及び障がいのある児童生徒の社会自立に向けた指宿地域全体の底上げにつながるものと考える。

### 『センター的機能のさらなる充実』

交流教育や地域社会との交流を通して、特別支援教育の理解啓発を図るとともに各教育機関や福祉機関、 行政機関との連携を推進する。

	評価項目	具体的取組・評価視点	評価点
1	地域の学校,各種団体,関係機関との連携を図りながら,交流 及び共同学習の充実に努める とともに,交流先や地域の 人々との相互理解や一層の理解啓発を図る。	・交流及び共同学習の計画と実施 ・交流のまとめと次年度の方向性の確認	3.27
,	教育相談や巡回相談等の実施や関係機関(医療, 福祉, 労働等)との連携を図ることで特別 支援教育に関する地域への理解・啓発・推進(幼稚園・保育園等の未就学児に対する巡回・教育相談・訪問等)を進める。	・幼・保への巡回訪問の企画・立案・実施・関係機関が集う協議会への参加時の啓発や校外向けの研修会の実施	3.30

え・地域の学校との交流学習を通して、相互理解を深めることができ、友好的な関係を築くことができた。また、各種部会への定期的な参加を通して関係機関との連携が図れるとともに、幼保への巡回相談や小・中・高等学校に対する研修会 ない中学校高等学校情報交換会を行うことで、特別支援教育に関する理解・啓発を図ることができた。

☆来年度は校内・校外での連携を深め、様々な障害特性のある子どもへの対応力を高めていきたい。